

## 平成21年度総合問題（第二部商経学科）解答例

**1** (90点： 長所=45点 短所=45点)

問1

### 【採点のポイント】

- ・ 資料1～3の内容について触れながら解答していること。
- ・ バイオマスエネルギーに関する近年のニュース等について触れていること。

### 【解答例】

長所：純国産エネルギーでまかなえる可能性がある（資料1，2）

廃棄物などを有効利用できる（資料1）

化石燃料を用いずにエネルギーを獲得できる（資料1，2）

小規模分散型エネルギー源のメリットが得られる（資料1，2）

循環型社会（資源リサイクル社会）を形成できる（資料1，2）

枯渇しない永続的な利用が可能である（資料2）

再生可能エネルギーである（資料2）

温室効果ガスの排出量が少なくクリーンである（カーボンニュートラル）（背景知識）

短所：過度のトウモロコシ生産により他の作物の生産バランスが崩れる（資料1）

バイオマスエネルギーの場合、食料需要と競合関係になる（資料1，3）

トウモロコシ生産に占めるエタノール需要が増加すれば、食料需要を脅かす（資料1，3）

現状では設備が高コストである（背景知識）

エタノール・ブームにより、他の作付けが減り、トウモロコシの生産が増加した（資料1）

エタノールの生産能力には限界がある。2007年時点の生産能力では、すべて稼働したとしても、米国のガソリン消費量の10%にも満たない（資料1）

エネルギー密度が低い（資料1，背景知識）

地球規模の気候変動の影響を受ける（資料2，背景知識）

発電出力の変動が大きい（資料2，背景知識）

資源の分布にかたよりのある（資料2，背景知識）

本来飼料等に使われるはずだったトウモロコシがエタノールに転化されている（資料3）

**2** (70点： 問1=30点， 問2=40点)

問1

### 【採点のポイント】

- ・ 法律や規則，マニュアルにたよることにより，自ら大人となる努力をしなくなったという内容を読み取れていること。

**【解答例】**

人々が，法律，規則，マニュアルなどの手近な解答に頼っていたため，自己の規範と判断で生きるための個人的な自立の必要性を感じなかった。また，その方が手っ取り早かった。自由社会は規制に頼っているうちに，人間が自立し大人になる努力を忘れた。(116字)

**問2**

**【採点のポイント】**

- ・ 問1の著者が主張する生きにくい社会の問題点を適切に指摘できていること。
- ・ その結果，生きやすい社会についての考察が論理的に示されていること。
- ・ その社会の実現のための手段について考察が論理的になされていること。

**【解答例】**

著者は，精神的に成長し，寛容で，みずからに厳しい紳士によって構成される社会が，未成熟で，不寛容でわがまま放題の子供がつくる社会よりもよりよいものだと考え，個々人が精神的に成熟するための努力の必要性を感じている。そして，自己形成とは規則を与えられて作られるものではなく，自己成長への反省・努力によってなされるものだという立場をとる。与えられた人格というものは，実は自己の血肉とならないと考えて，自覚的自立的成長をはかるべきだと考えるクラーク博士の立場を支持している。

しかし，個人に大人としての成熟を求めるだけでは問題は解決しない。社会的病理状況を作り出す要因は，成長過程における自己形成の歪みだけではなく，大人としての正常な発達を歪める過酷な競争の強制，解消できない格差などである。したがって，それらの問題の社会的解決が必要であり，大人としての成熟を社会が支えられるようにすることが大切である。(396字)

**3** (40点)

**【採点のポイント】**

- ・ ウチとソトの強い区別がなされると，ものごとが成長するときには好循環をもたらすし，停滞・縮小期になると悪循環のほうになってしまう，ということについて述べられていること。
- ・ 適切な語彙を使用していること。

**【解答例】**

ウチとソトの強い区別は，経済成長の時代には，会社や家族が“単位”となって競争しつつその利益を追求し，それが全体のパイの拡大につながるという一種の好循環をもたらした。

しかし，現在においては，人々の孤立と（不安の中での）過当競争・生産過剰といった悪循環の基本的な背景になってしまっている。(142字)